

行政視察報告書

中核市移行特別委員会行政視察		令和元年8月28日(水)～29日(木)
視察先 及び 視察事項	・令和元年8月28日(水)	1 中核市移行について
	山形県山形市	ア 中核市移行の経緯（議会の対応含む）
		（ア） 中核市移行の目的、メリット
		（イ） 移行に伴う組織、推進体制、施設並びに専門職員の確保、育成
		（ウ） 県との協議・調整・連携における課題
		（エ） 移行に伴う経費と財源措置の精査
		（オ） 市民への周知、説明に対する課題と対応（合意形成）
		イ 市の特徴的な施策について
		ウ 保健所関連施設の設置について（保健所現地視察含む）
		（ア） 設置の概要
		（イ） 既存施設（保健センター等）との一元化の対応と今後の課題
		（ウ） 関係団体との調整・対応
		（エ） 市保健所の将来像
		（オ） 食肉衛生検査施設設置の概要と課題
	・令和元年8月29日(木)	1 中核市移行について
	埼玉県川口市	ア 中核市移行の経緯（議会の対応含む）
		（ア） 中核市移行の目的、メリット
		（イ） 移行に伴う組織、推進体制、施設並びに専門職員の確保、育成
		（ウ） 県との協議・調整・連携における課題
		（エ） 移行に伴う経費と財源措置の精査
		（オ） 市民への周知、説明に対する課題と対応（合意形成）
		イ 市の特徴的な施策について
		ウ 保健所関連施設の設置について（保健所現地視察含む）
	（ア） 設置の概要	

	(イ) 県保健所併設における課題と対応
	(ウ) 保健センターとの一体的な業務提供と 今後の課題
	(エ) 関係団体との調整・対応
	(オ) 市保健所の将来像

今回中核市特別委員会の行政視察は、山形県山形市、埼玉県川口市を訪れ、上記の項目で行われた。

私としては、松本市の中核市移行に関しては、決して積極的立場をとってこなかったもので、今回の視察に関しては、項目の中で、特に以下の3点に関して確認してきた。

- ① 保健所関連設置と市の特徴的な施策について
- ② 移行に伴う経費と財源措置の精査
- ③ 移行に伴う組織、推進体制、施設並びに専門職員の確保、育成 とりわけ保健師

この点を中心に、報告します。

1 山形県山形市の場合

人口 253,832 人

H31 年 4 月 1 日に中核市に移行

山形市は、「健康寿命の延伸」のために、

◎健康（予防）では、SUKSK（スクスク）生活の勧め、

S： 食事 — 減塩、栄養バランス、健康な歯

U： 運動 — 適度な運動、日光

K： 休養 — 適切な睡眠、余暇を楽しむ

S： 社会 — 社会インフラの整備、教育・仕事・人間関係、高齢者の社会参加

K： 禁煙 — 受動喫煙のない環境

◎医療では、ガン、心疾患、脳卒中の予防・早期発見・治療を進め、

全体としては、「健康医療先進都市・山形」 を目指している。

①保健所の拠点となる施設は山形駅隣接の官民複合ビル「霞城セントラル」（山形市城南町一丁目）に設置し、これまでの山形市の健康課や保健センターの機能を統合・再編し、総合的な保健衛生行政を担い、子育て・福祉部門との連携、窓口の一本化を図っ

た。

②中核市移行に伴い新たに発生する事務経費や人件費等の増については、地方交付税や国庫支出金、手数料等の増により不足なく措置されると見込んでいた。（H27年11月時点の「基本方針書」では、具体的数字はなし）

その後、H30年2月「実施方針書」では、

ランニングコストで

歳出増 950.961 千円

歳入増 1.006.380 千円

差し引き（歳入増 - 歳出増） = 55.419 千円

のプラスと見込んでいたが、移行直前の試算結果（H30年度）は

プラス 8.000 千円 と実際は、30年度実績（？）は、29年度試算よりプラス幅が約 1/7 に減っている。

尚、移行に伴うイニシャルコストは、

H29年度 101.104 千円

H30年度 701.926 千円

合計 803.030 千円

③職員増員数は、H29年度、30年度、31年度 の3年間で、全体では、91人（うち14人は県からの派遣）の増、そのうち、保健師に関しては、10人（うち2人は県からの派遣）増やしている。

2 埼玉県川口市

人口 578,112 人

H30年4月1日に中核市に移行

「自らのまちのことを自ら決められる領域の拡大による自治の活性化」をモットーの一つ中核市移行を決めた。

①埼玉県の川口保健所を引き継ぐものとする。

保健所設置に当たっては、「保健所業務と市が保健センター等で行ってきた保健衛生業務とを一体的に提供できる体制を整える。」ことを目指した。

その中には、民生委員の定数を自ら決定できるメリット、診療所と薬局との連携も挙げられている。

尚、検査部門に関しては、中核市移行後、埼玉県と協議、支援を受けながら順次体制整備を図ることにした。

②H26年10月に作成された、「中核市移行基本方針書」には、経費増加に関する財源は、基本的には地方交付税で措置され、現時点では、基準財政需要額算定増の約25億円を見込めると書いてある。

実際のところは、H30年度予算では、移行に伴う経費増と交付税などの歳入増は、「25億円」ではなく、いずれも22億3800万円でトントンの見通しに対し、H30年度決算では、「ほぼプラスになる」とのことだった。

③組織及び職員体制については、財政力に見合った市政運営を基本とし、「移譲される事務とその事務量、財政的な影響を精査及び検討を進め(る)」と書かれている

実際の保健所にかかわる職員数は、()は、県からの支援職員)

	総数	保健師
H30年4月1日	152名(17)	73名
H31年4月1日	154(17)	74

まとめ)

全体として、中核市に移行していずれも本当に間もない都市であるので、実際のところはこれからというのが正直なところ。

① に関しては、松本市の健康寿命の延伸事業と重なる部分もあるが、具体的な点は、今回だけの視察では、十分に確認できなかった。

② については、山形市も、川口市も記載した通り、一応「賄われている」といえるが、これも、さらに経過する中では、まだ未知数といえる。

③ 全体職員は、当初予定より増員が必要というのが共通だが、県からの支援・派遣職員のこともあり、今後はどうなるのかこれも未定の部分が多い。

全体として、松本市との関係でみると、松本市の場合は、ランニングコストで「赤字」

になる見通しだが、今後職員の配置、保健師さんの増員は、これからの課題となる。

今回の視察都市のみならず、引き続き中核市移行(予定を含む)都市の動向を注視したい。

以上

令和元年10月1日

松本市議会議長 村上 幸雄 様

中核市移行特別委員

池田国昭